

2018年12月期 第2四半期 決算説明会

2018年9月5日
市光工業株式会社

決算資料に関する注意事項

■ 今回のご説明ご留意点

- ✓ 第2四半期（2018年1月～6月）の実績は、前年の同一期間である2017年1月～6月の業績（非監査）と比較しています。

- ✓ 2018年12月期（2018年1月～12月）の業績予想は、前年の同一期間である2017年1月～12月の業績（非監査）と比較しています。

目次

- 2018年第2四半期業績概要（2018年1月～6月）
- 2018年12月期業績見通し（2018年1月～12月）
- 前回発表中期経営計画の進捗状況（2017～2022年）
- Appendix

2018年第2四半期業績概要 (2018年1月～6月)

2018年第2四半期 連結業績概要（対前年同期比）

単位：億円/四捨五入

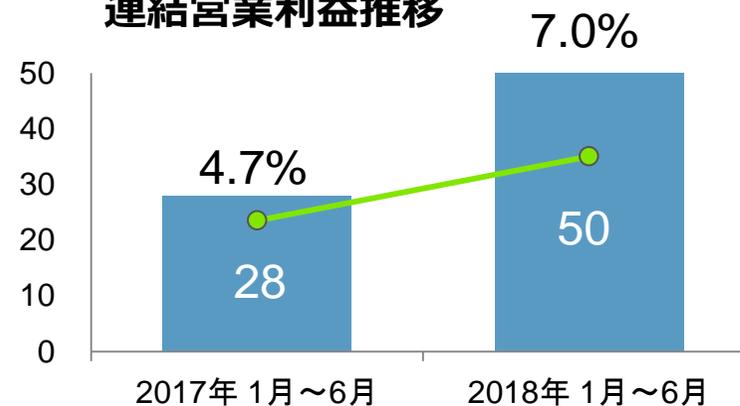
◆ 対前年同一期間比、大幅増収増益達成

	前年同一期間 (2017年1~6月)	FY2018 実績 (2018年1~6月)	増減額	増減率
売上高	596	712	116	19.4%
営業利益	28	50	22	78.4%
営業利益率	4.7%	7.0%	-	2.3ポイント
経常利益	30	59	30	100.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	30	47	17	57.8%

連結売上高推移



連結営業利益推移



2018年第2四半期地域別業績

単位：億円/四捨五入

- ◆ 日本国内大幅増収・増益継続
- ◆ 海外も増収・増益継続

	日本 (市光工業)	海外	その他	内部取引 消去等	合計
売上高	567 (471)	116 (92)	54 (53)	▲26 (▲20)	712 (596)
営業利益	41 (21)	10 (7)	1 (1)	▲1 (▲0)	50 (28)
営業 利益率	7.2% (4.4%)	8.3% (7.5%)	2.3% (1.9%)	-	7.0% (4.7%)

市光工業：単体ベース（伊勢原・藤岡・ミラー・本社）

海外：インドネシア・マレーシア・タイ・中国

その他：用品事業（PIAA）・バルブ製造販売事業（Life Elex）

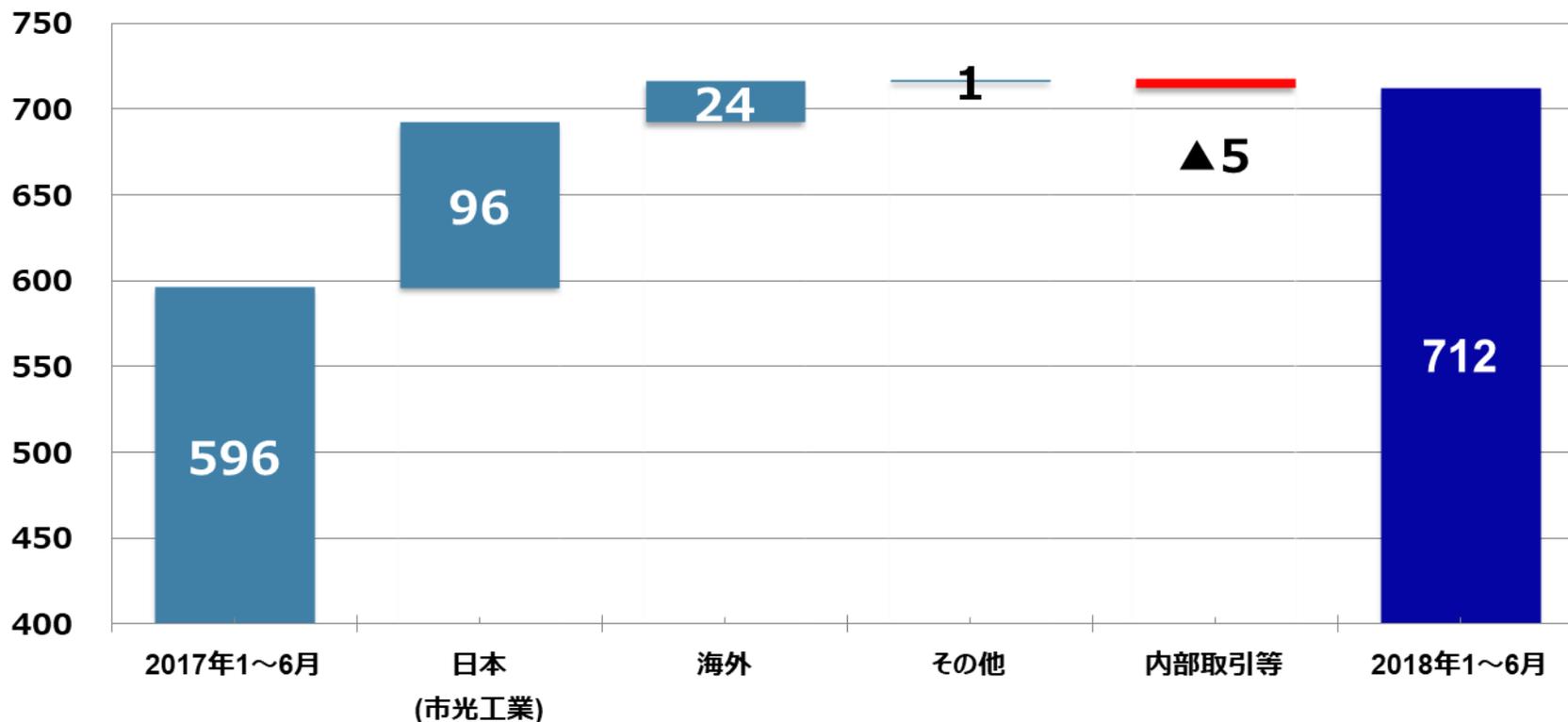
（ ）：前年同期（2017年1月-6月）の数値

2018年第2四半期 業績のポイント

単位：億円/四捨五入

売上高

- ◆ 日本国内 新モデル立上げおよび高付加価値品等による増収
- ◆ ASEAN インドネシアを中心に増収

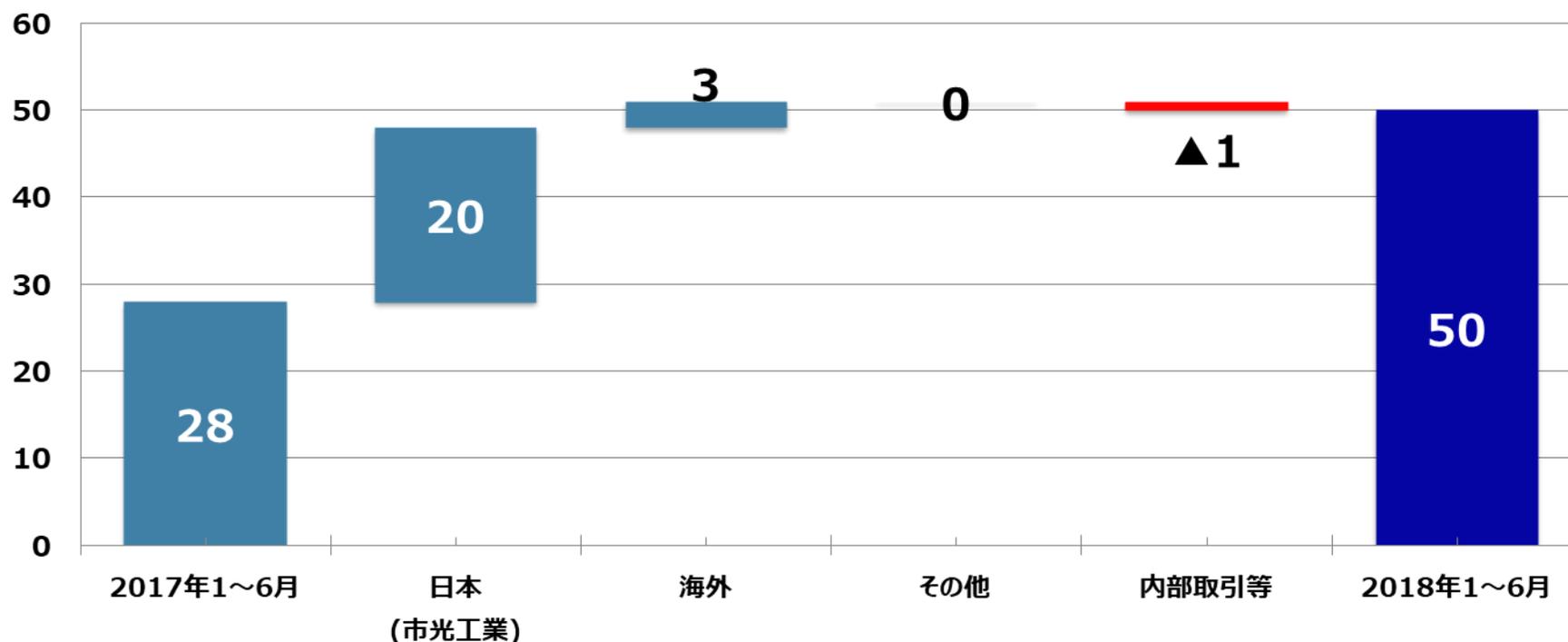


2018年第2四半期 業績のポイント

単位：億円/四捨五入

営業利益

- ◆ 日本国内 LEDランプ、カメラモニターシステム等の高付加価値製品販売堅調が寄与
- ◆ 海外 利益回復継続



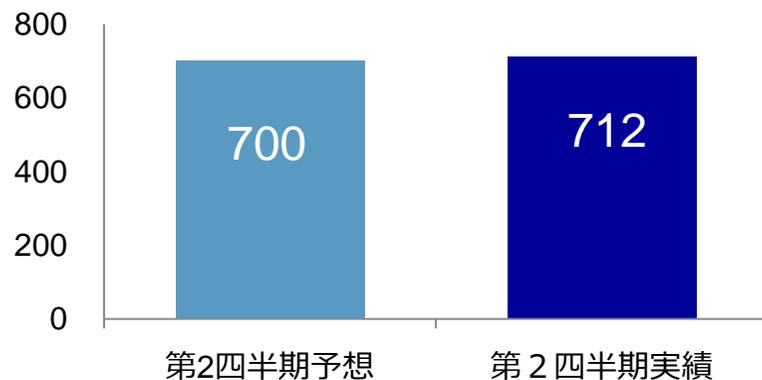
2018年第2四半期 連結業績概要（対予想）

単位：億円/四捨五入

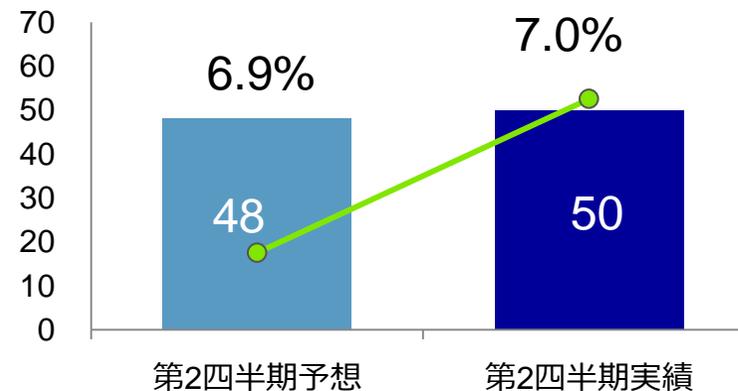
◆ 第1四半期決算発表時に上方修正した見通しを達成

	連結業績予想 (2018年1~6月)	実績 (2018年1~6月)	増減額	増減率
売上高	700	712	12	1.7%
営業利益	48	50	2	4.5%
営業利益率	6.9%	7.0%	-	0.1ポイント
経常利益	56	59	3	6.1%
親会社株主に帰属する当期純利益	43	47	4	8.5%

連結売上高



連結営業利益

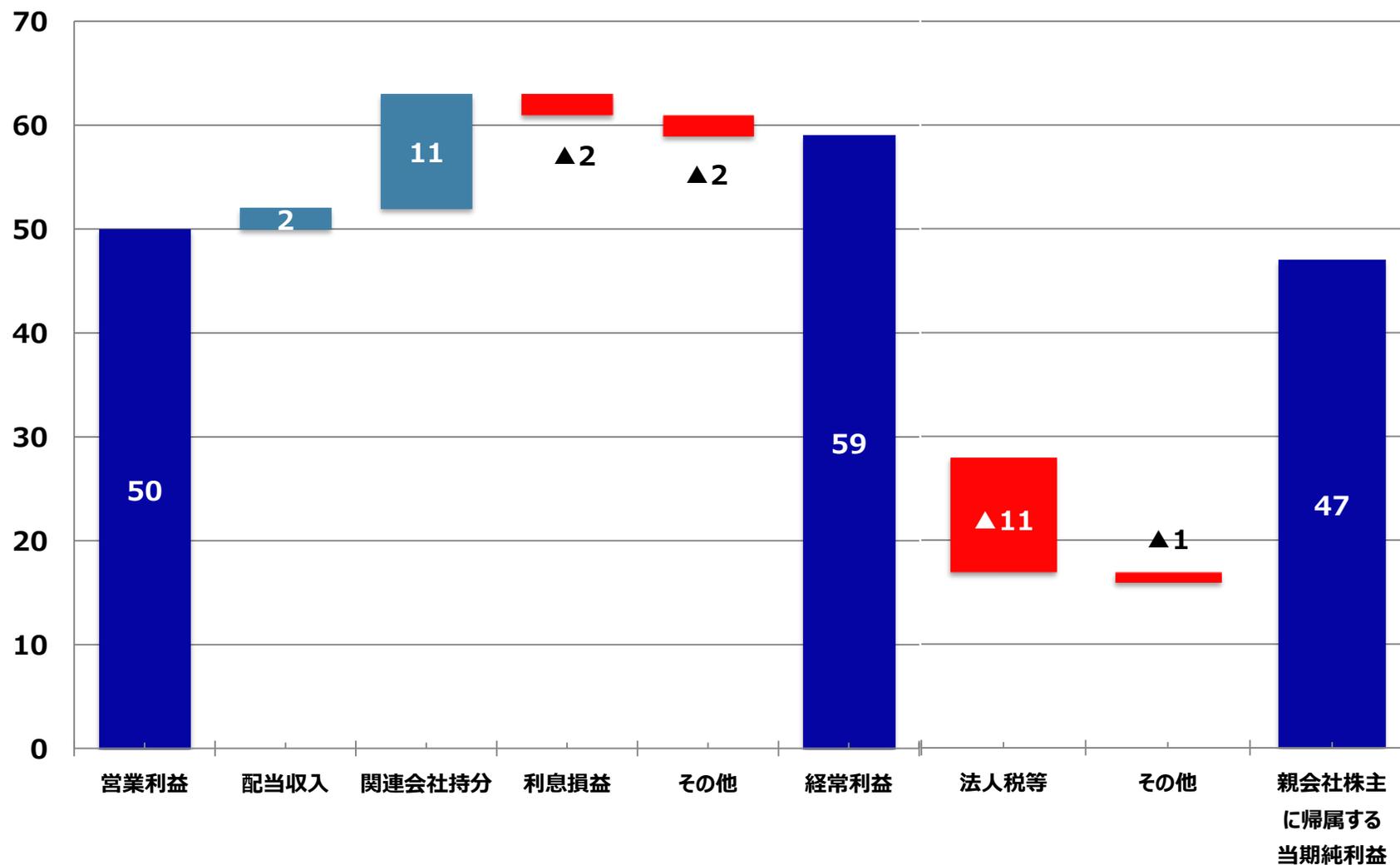


2018年第2四半期 業績のポイント

- ◆ 国内ライティング事業は、新規立上げ製品やLEDランプなど高付加価値製品により増収増益
- ◆ 国内ミラー事業は、カメラモニターシステムなどの販売が引き続き堅調に推移
- ◆ ASEANライティング事業は、売上増に加えオペレーションの改善など業績回復
- ◆ 経常利益ベースでは、持分法適用会社における一過性の利益等がプラスに影響。
但し、一過性要因を除いた場合でも前年同期比で大幅改善

(参考) 【営業利益～経常利益～親会社株主に帰属する当期純利益】

単位：億円/四捨五入



連結貸借対照表（前年度期末比）

単位：億円/四捨五入

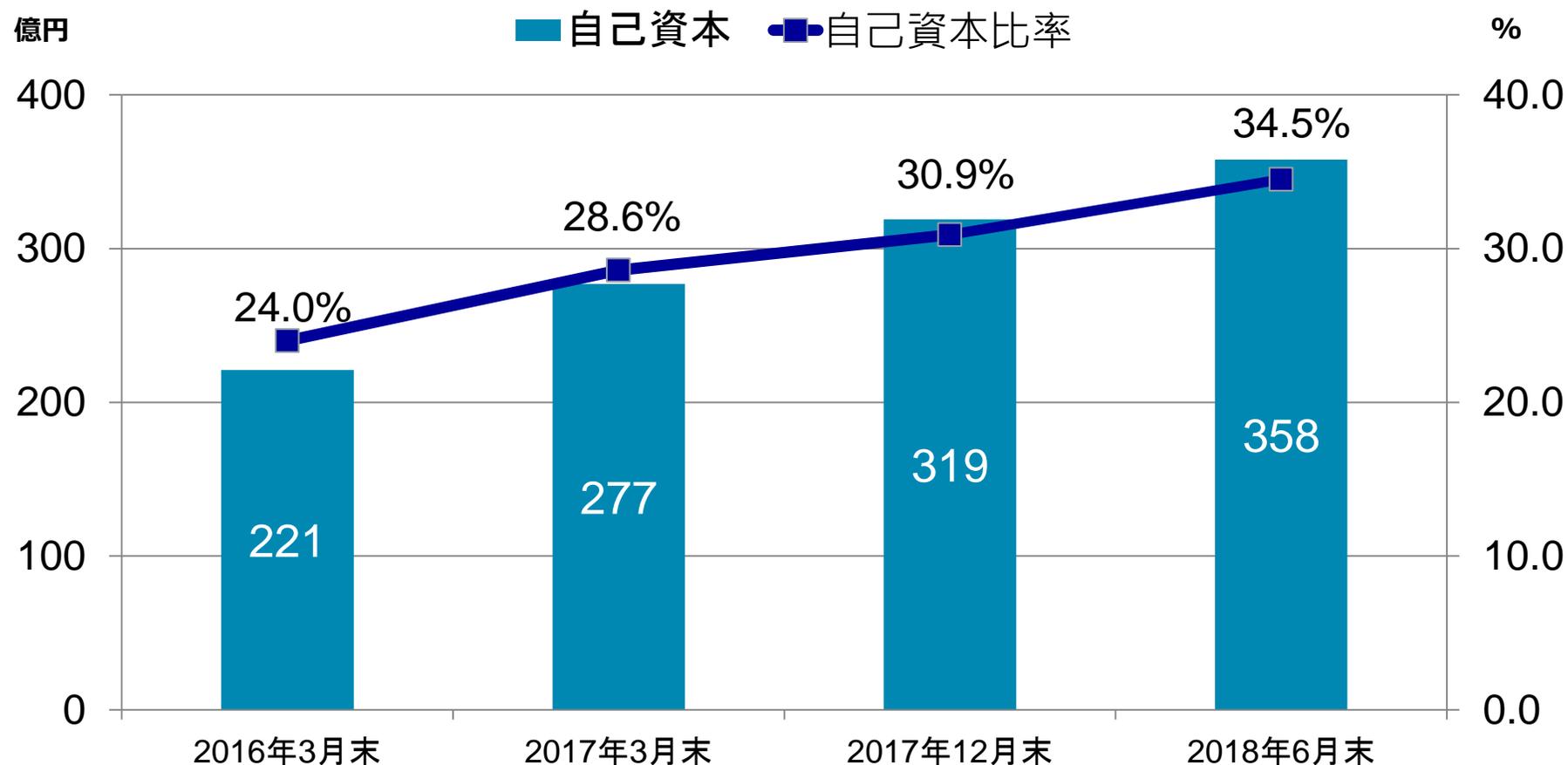
	2017/12	2018/6	増減
現金及び預金	94	103	9
棚卸資産	87	84	▲3
有形固定資産・無形固定資産	415	404	▲11
その他	436	445	9
資産の部	1,032	1,036	4
有利子負債	256	184	▲72
その他	443	480	37
負債の部	699	665	▲34
株主資本	318	364	46
その他包括利益累計額	1	▲6	▲7
非支配株主持分	14	14	0
純資産の部	333	372	39
自己資本比率	30.9%	34.5%	
D/E比率	80.1%	51.5%	

連結キャッシュフロー計算書

(億円)	2018年 1月～6月
税引前利益	58
減価償却及びのれん償却	49
賞与引当金	20
運転資金増減	▲ 5
持分法による投資利益	▲ 11
その他	10
営業活動によるCF	121
有形固定資産に取得による支出	▲ 36
有形固定資産売却	21
その他	▲ 9
投資活動によるCF	▲ 24
フリーCF	97
有利子負債増減	▲ 88
配当支払額	▲ 1
財務活動によるCF	▲ 87
現金等に係る換算差額	▲ 1
現金等の増減額	9

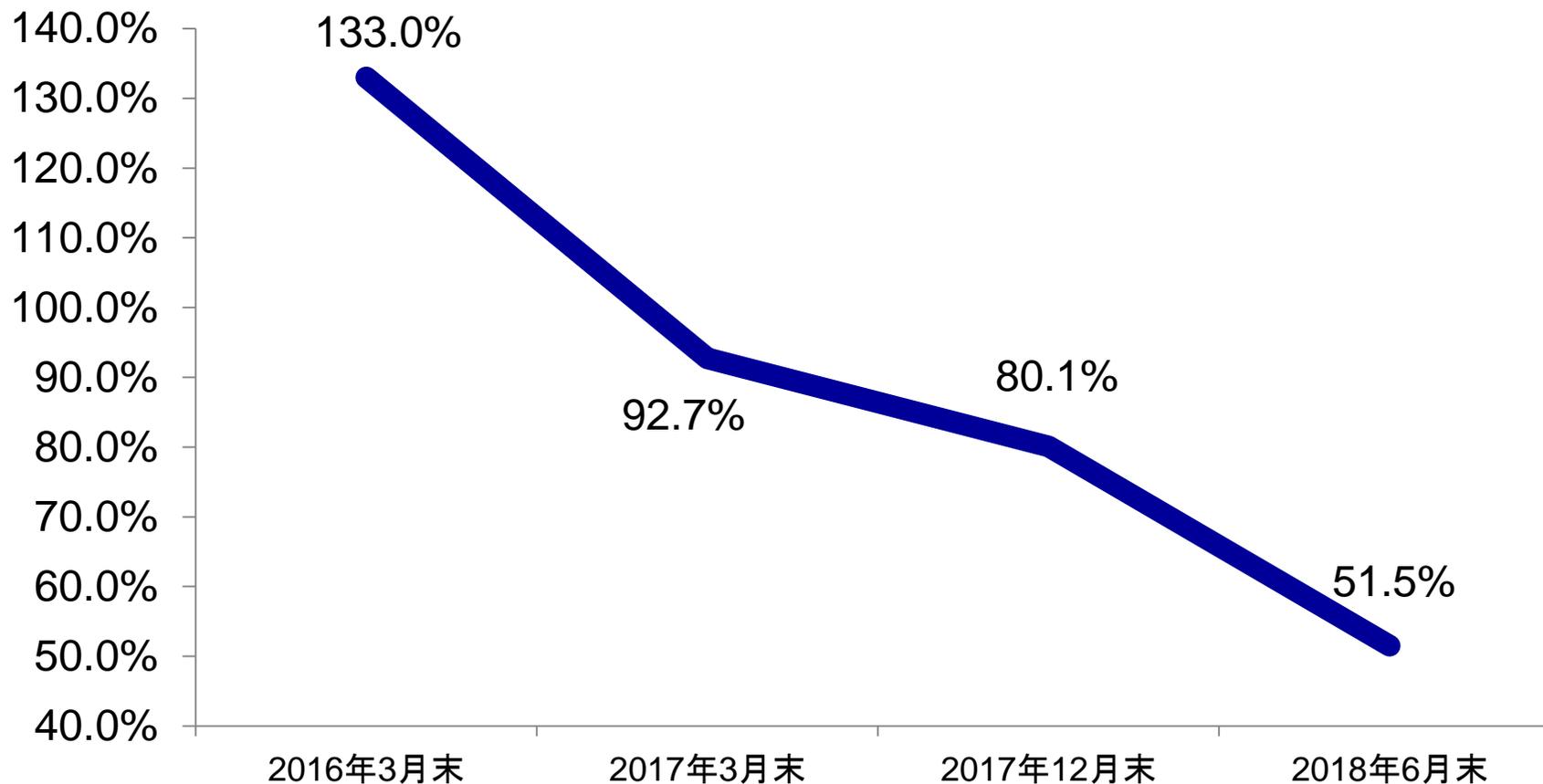
自己資本額と比率

自己資本着実に改善



D/E レシオ

D/E レシオも着実に改善



2018年12月期業績見通し (2018年1月～2018年12月)

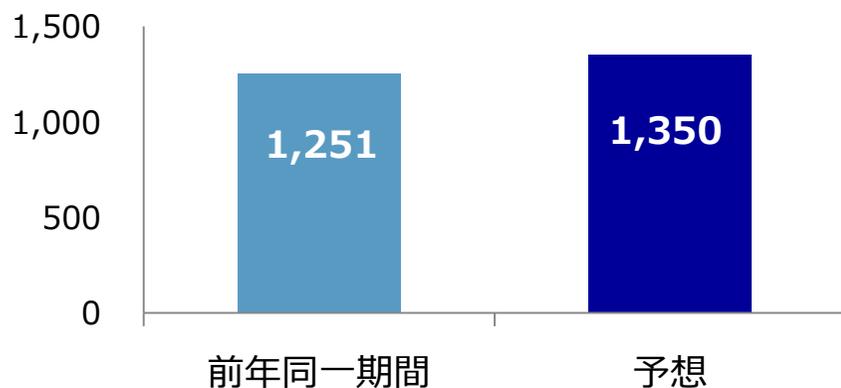
2018年1月～18年12月 連結業績見通し(前年実績対予想)

単位：億円/四捨五入

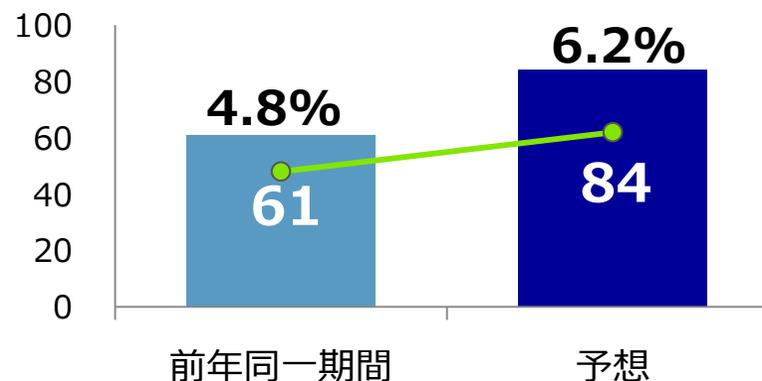
◆ 第1四半期決算発表時に修正した年度見通しを維持

2018年12月期 通期(18年1～12月)			
	前年同一期間参考値	予想	増減額
売上高	1,251	1,350	99
営業利益	61	84	23
営業利益率	4.8%	6.2%	-
経常利益	68	96	28
親会社株主に帰属する当期純利益	62	73	11

連結売上高(通期)



連結営業利益推移(通期)



前回発表中期経営計画の進捗状況 (2017年～2022年)

中期経営計画 2017 – 2022 変化点

単位：億円



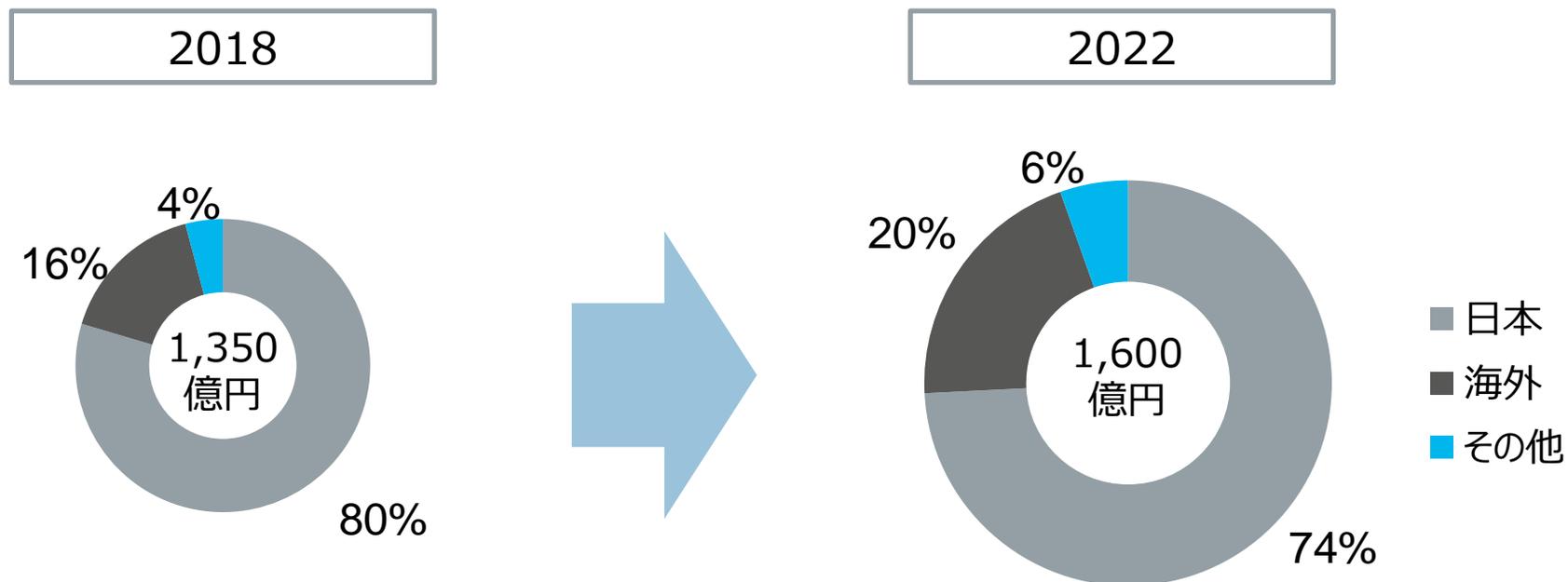
2018 計画超過達成の見込（営業利益率：4.8% ⇒ 6.2%）

2019-2020 成長に向けた準備期間（能力増強・効率化投資、研究開発費増強）

2022 前回発表・売上高1,650億円 ⇒ 今回予想 1,600億円へ

前回発表・営業利益率 8% ⇒ 今回予想 8.3%へ

中期経営計画 2017 – 2022 売上構成推移



ASEAN及び中国の自動車生産市場の成長を睨み、海外の売上構成割合を引き上げる計画

中期経営計画 2017-2022

2018年進捗状況

前回発表

2018年進捗

経営指標

売上：1,650億円（2022年）
営業利益率：8%（2022年）
（営業利益率3.2pt向上）

2018年度営業利益率は1.4ポイント超過達成見込み（昨年発表4.8%⇒見通し6.2%）

施策と進捗

売上成長に向け、製造拠点の拡張と再構築並びに開発リソースの強化

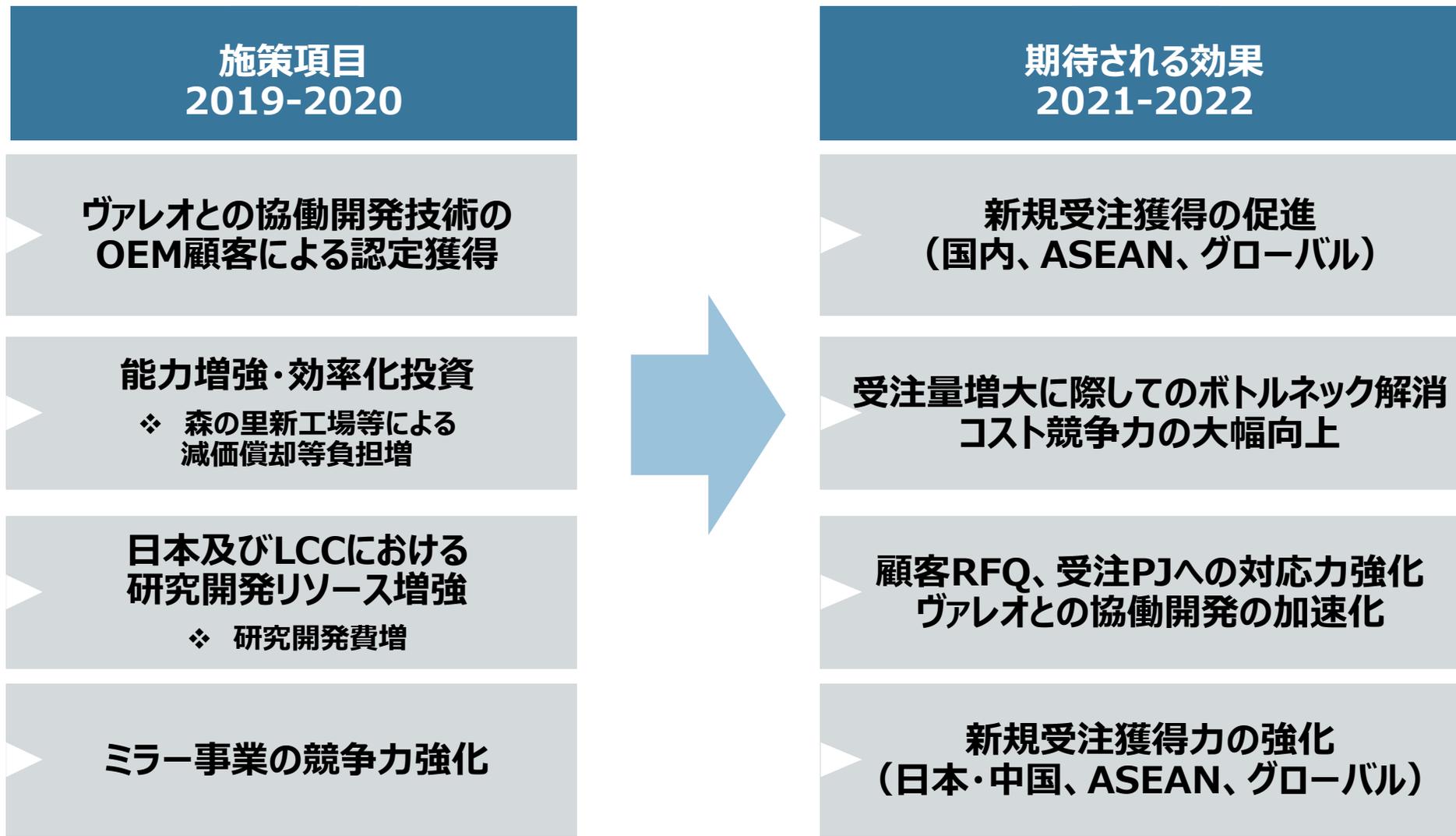
1. 収益改善要因
 - ・国内の生産性向上
 - ・製品開発力の向上
 - ・高付加価値製品によるシェア拡大
 - ・ASEANオペレーション改善
2. 収益負荷要因
 - ・設備投資による償却負担
 - ・研究開発費増加
 - ・受注競争による収益圧迫

想定を上回るペースでの利益改善達成

1. 収益改善要因
 - ・高付加価値製品売上増
 - ・国内工場再構築プロセス途上ながら生産性改善効果顕在化
 - ・マザー・ドーター活動によるASEANオペレーションの改善
2. 収益負荷要因
 - ・藤岡工場再構築
 - ・中国広州のミラー新工場設立

中期経営計画 2017-2022

2019 – 2020年は成長に向けた準備期間



中期経営計画 2017-2022

ヴァレオとの統合進捗

前回発表

R&D シナジー

- ▶ Technology Development Planの共同推進
- ▶ 両社間での基盤技術の相互活用

購買 シナジー

- ▶ ヴァレオとの共同購買の加速化

生産技術 シナジー

- ▶ ヴァレオ式生産システム (VPS), Factory 4.0の導入
・運用の加速化

間接経費の効率化

- ▶ 間接部門の合理化

2018年度進捗

R&D シナジー

- ▶ ヴァレオが保有する電子技術の全面的導入
(例 LDM, ADB, HD Lighting)

購買 シナジー

- ▶ 共同Sourcing 強化のための組織変更
- ▶ 間接購買部門をヴァレオジャパンと統合

生産技術 シナジー

- ▶ 藤岡製造所でのLean生産方式導入
- ▶ 自動化 (Robot/ Cobot/ AGV) ⇒ 伊勢原、藤岡、九州での導入

間接経費の効率化

- ▶ ヴァレオ ジャパンとの経理機能統合の加速拡大 (シェアード・サービス)
- ▶ ヴァレオとのIT運用を共通化 (最新のヴァレオITシステムへ更新中)

Appendix

森の里製造所（仮称）の進捗状況

伊勢原製造所から森の里製造所に移管

- ▶ 中期計画にあるヘッドランプを中心とする事業の成長に対応
- ▶ リーン生産方式を採用してコスト競争力を強化
- ▶ 事業継続管理(BCM: Business Continuity Management)全般の向上

(スケジュール)

2018年 2月	地鎮祭
2019年 7月	生産開始(予定)



工事は順調に進捗中

市光とヴァレオ、名古屋テクニカルセンターを開設

2018年5月、市光工業とヴァレオジャパン
共同で「名古屋テクニカルセンター」を開設。

これまで市光工業とヴァレオジャパンが中部地
区に置いていた別々の拠点を1箇所に統合。

(狙い)

中部地区での営業力の強化
R & D機能拡充



新住所：〒468-0011 愛知県名古屋市
天白区平針1丁目117番地
TEL: 052-848-6002 (代表)
FAX: 052-848-6014

予測に関する注意事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は、今後様々な要因により異なる結果となる可能性があります。

ご利用に際しては、ご自身の判断で御願ひ致します。資料に記載されている見通しなどに基づいて投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失についても、当社は責任を負いません。

この資料の著作権は市光工業株式会社に帰属します。いかなる理由によっても当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。

ICHIKOH
a Valeo company